

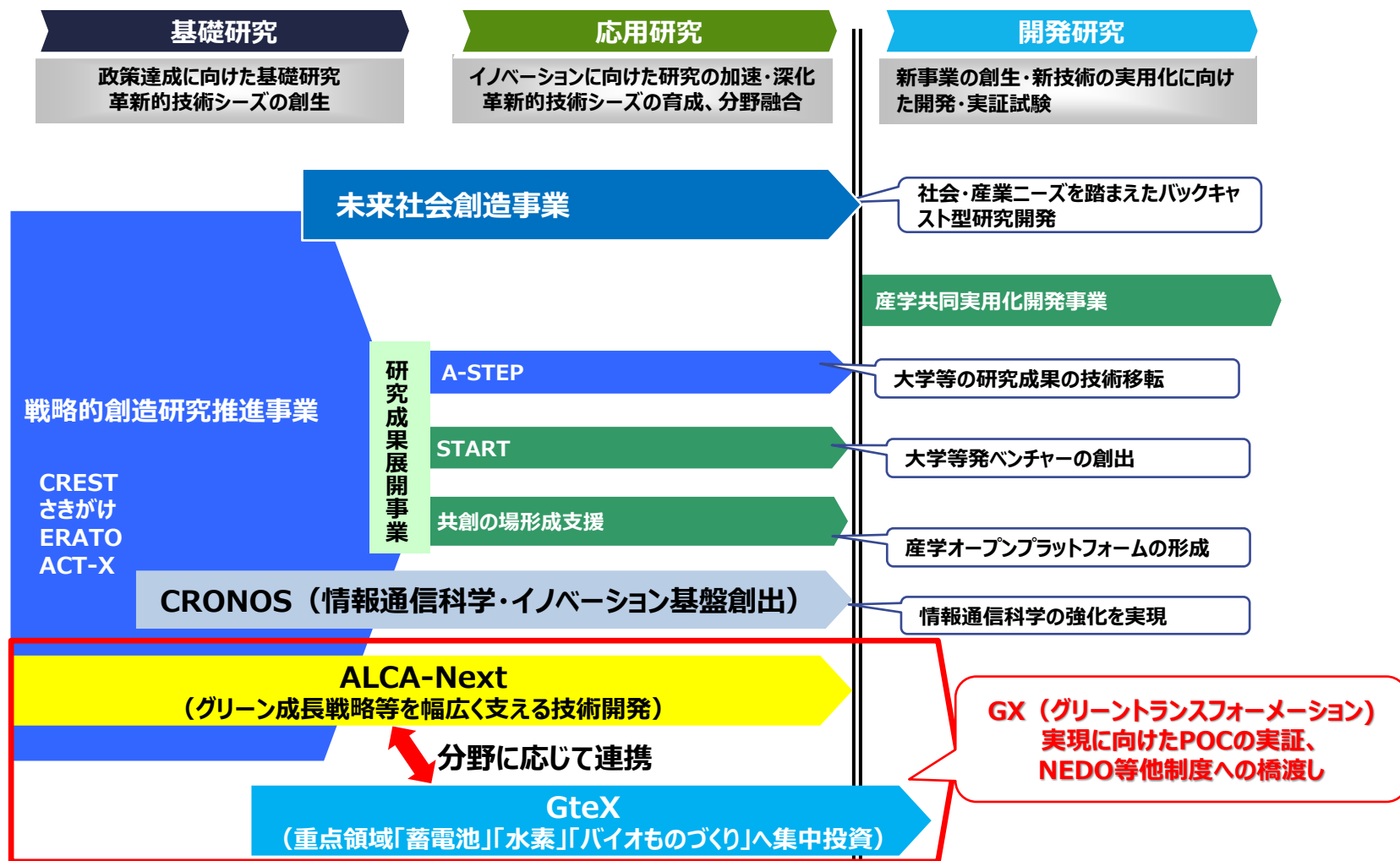


戦略的創造研究推進事業 ALCA-Next 制度説明 および 募集概要

2025年3月

国立研究開発法人科学技術振興機構

JST事業におけるALCA-Nextの位置づけ



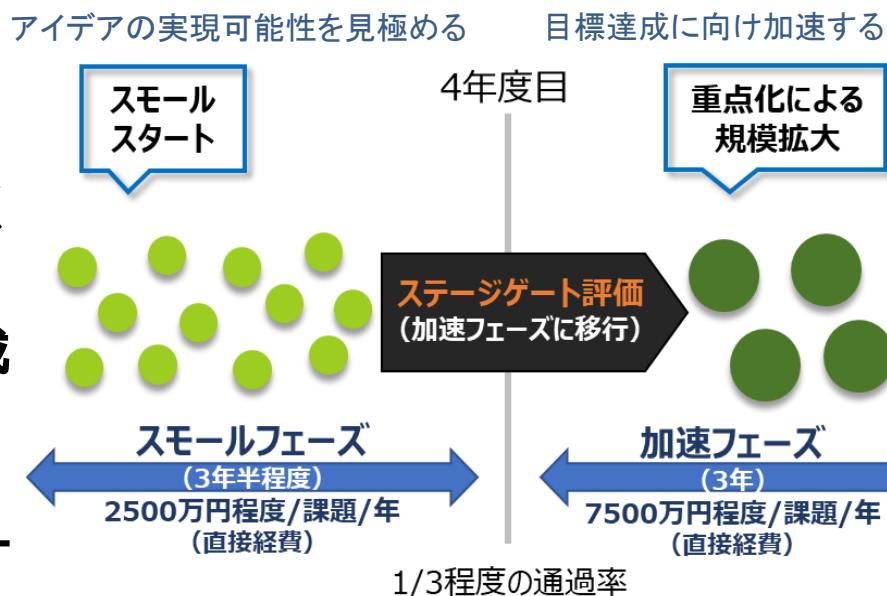
ALCA-Next の 概要

プログラムの趣旨

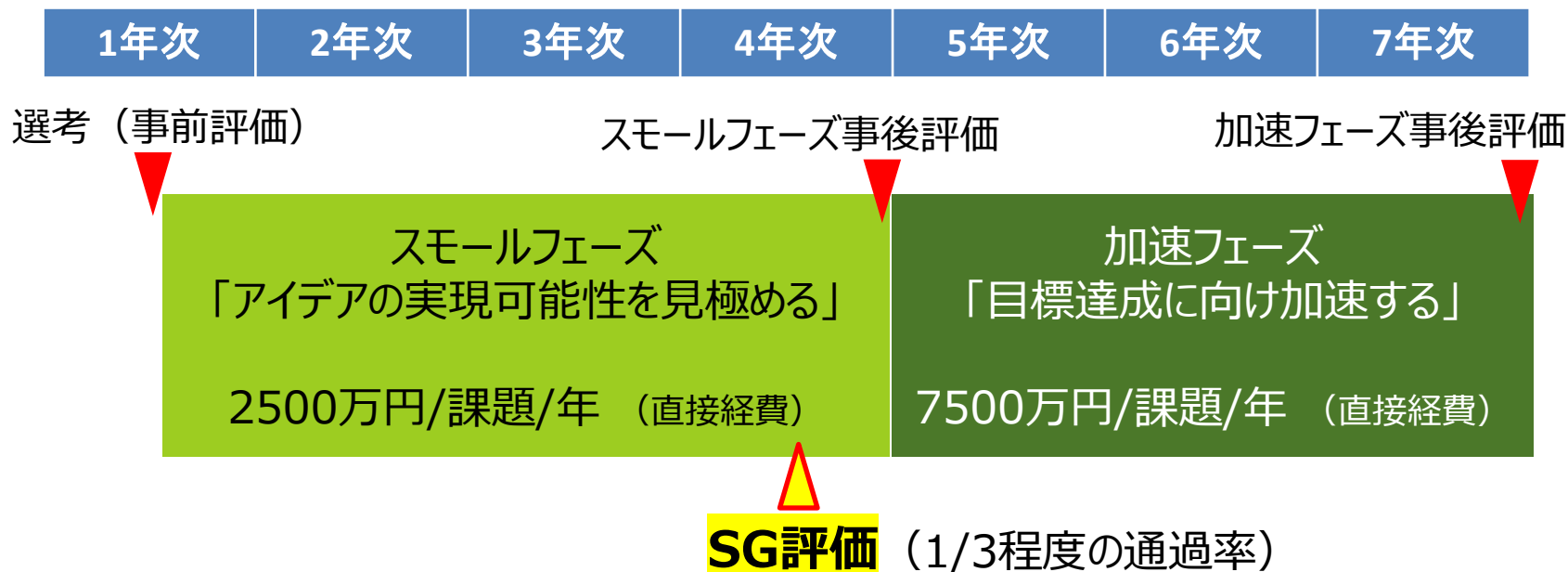
カーボンニュートラルへの貢献という出口を明確に見据えつつ、個々の研究者の自由な発想に基づき、科学技術パラダイムを大きく転換するゲームチェンジングテクノロジー創出を目指す。

プログラムの特徴

- ・カーボンニュートラルに貢献する幅広い研究分野をカバー
- ・個々の研究者の自由な発想に基づく挑戦的な提案を積極的に採択
- ・ステージゲート評価等により技術的成熟度の向上を図り技術シーズを育成
- ・GteX等の他事業と連携により、研究開発の加速と成果の橋渡しを目指す



ステージゲート評価



ステージゲート評価では

- 研究開発成果の創出等の研究開発の進捗、技術的ボトルネック解決の達成度、カーボンニュートラル実現への貢献の観点等から厳密な評価を行います。
- 単純な絞り込みだけではなく、状況に応じて複数課題の融合による体制再編成等も検討いたします。

ALCA-NextとGteXとの連携

The logo for GteX, featuring the word "GteX" in a bold, black, sans-serif font. The letter "X" is stylized with a green leaf-like shape on its upper right arm.

革新的GX技術創出事業

トップダウンで定めた「蓄電池」「水素」「バイオものづくり」分野について、大学等のトップレベルの研究者によるオールジャパンの統合的な「チーム型」の連携体制を構築し、基礎研究の成果を挙げることにとどまらず、**社会実装**に向けた技術成熟度（TRL）の向上等を目指します。

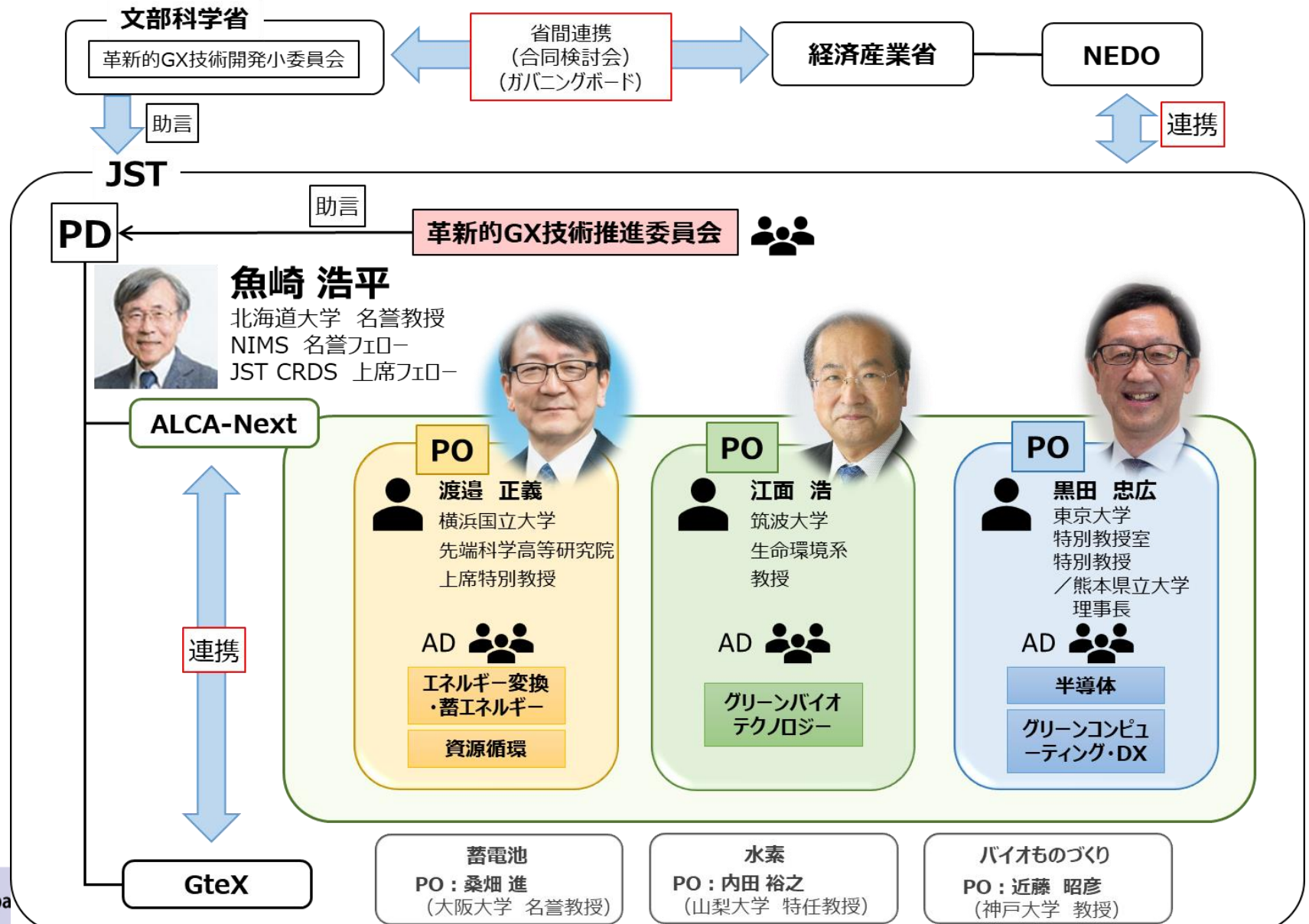
The logo for ALCA-Next, featuring the text "ALCA-Next" in a green, sans-serif font. The letter "t" is stylized with a green leaf-like shape on its upper right arm.

先端的カーボンニュートラル技術開発

個々の研究者の自由な発想に基づき（ボトムアップ）、幅広く、科学技術パラダイムを大きく転換する**ゲームチェンジングな技術シーズ**を創出します。

- ALCA-NextとGteXは一体的な運営を行い、成果の最大化を図ります。
 - データの共用化、国際連携、若手研究者の育成等に、協働して取り組みます。また、機器共用の促進の観点から、GteXで整備・供用される研究機器等を本プログラムの研究者が活用する仕組みがあります。
 - 創出された成果がGteXのチーム型研究における要素技術として有効とGteXのPO等が判断した際には、GteX採択課題へ参画して研究開発を実施いただく等の調整を行う場合があります。

ALCA-Next 運営体制



研究開発提案募集について

募集・選考のスケジュール

募集開始	2025 年 3 月 7 日（金）
募集受付締め切り （e-Radによる受付期限）	<u>2025年 5月 8 日（木）</u> <u>12:00（正午）厳守</u>
書類選考期間	5月中旬 ～ 6月中旬
書類選考結果の通知	※面接対象者のみに、面接選考会よりおおよそ 10-14日前に連絡いたします。 （FS課題は、原則、書類選考のみを予定しています）
面接選考期間	7月上旬 ※面接日はWebサイトをご確認ください。
採択課題の通知・発表	8月下旬～9月上旬
研究開発開始	9月上旬以降

募集締切までに e-Rad を通じた応募手続きが完了していない提案は、
いかなる理由があっても審査の対象とはいたしません。
×切に余裕をもって応募くださいますようお願いいたします。

2025年度 募集対象の技術領域

「エネルギー変換・蓄エネルギー」領域

(プログラムオフィサー：渡邊 正義)

「資源循環」領域

(プログラムオフィサー：渡邊 正義)

「グリーンバイオテクノロジー」領域

(プログラムオフィサー：江面 浩)

「半導体」領域

(プログラムオフィサー：黒田 忠広)

「グリーンコンピューティング・DX」領域

(プログラムオフィサー：黒田 忠広)

上記技術領域に当てはまらないものでも、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献する研究開発提案であれば、選考の対象とします。「その他新発想」としてご応募ください。

研究開発期間、研究開発費、採択予定課題数

● 研究開発期間

スモールフェーズ 3年6カ月程度、 加速フェーズ※ 3年

※ 加速フェーズへの移行は、ステージゲート評価で審査

● 研究開発費

以下を上限として、研究開発提案者が設定。

スモールフェーズ（1～4年目まで）：上限2,500万円／年（直接経費）

加速フェーズ（5～7年目まで）：上限7,500万円／年（直接経費）

※ 選考の過程で、設定した研究開発費の妥当性を査定。

※ 実際の研究開発費は、研究開発計画の精査・承認によって決定。

※ 研究進捗状況等を踏まえ、研究開発期間中に別途調整する場合がある。

● 採択予定課題数

全体で 10件程度 を予定

評価基準(事前評価)

1. 研究開発の全体構想について

- 本プログラム・技術領域等の趣旨に合致しているか。
- カーボンニュートラル実現に大きく貢献可能な技術の創出が見込まれるか。

2. 提案の優位性・独自性について

- 従来技術の延長ではない挑戦的な技術内容であり、科学技術の飛躍的な発展を見込めるか。
- 国内外の研究開発動向を踏まえ、提案が優位性、独自性を有するか。

3. 研究開発計画について

- 目標達成に向けて、適切な研究開発計画が立てられているか。

4. 研究開発体制について

- 研究開発体制およびその役割分担が、目標達成に向けて妥当であるか。
- 研究開発代表者が目標達成に向け、リーダーシップ及びマネジメントを発揮できるか。

※研究費の「不合理な重複」ないし「過度の集中」にあたるかどうか、選考の要素となります。

フィージビリティスタディ(FS)課題

ゲームチェンジングテクノロジーの創出に向けて挑戦的で多様な提案を発掘・育成するため、「フィージビリティスタディ (FS) 課題」も募集します。

FS課題では、通常のALCA-Nextへの研究開発提案を想定する研究テーマについて、データの補完等を行うことで、カーボンニュートラルへの貢献可能性の科学的検証やそれに基づく研究開発目標設定を行い、FS終了後に、通常のALCA-Nextへ応募していただきます。

- 研究期間： 1.5年
- 予算額： 上限250万円／年・課題（直接経費）
- 採 択 数： 10課題程度

※FS課題の選考は、FSを実施することで、通常のALCA-Nextの選考基準を満たす可能性があるか、選考基準をよりの的確に評価しうるデータ等を補完する提案内容であるか、という観点で評価します。

※提案書では、通常のALCA-Nextへの応募に向けて、何が不足しており、それをどのように補完するのか、明確にしてください。

応募要件(1)

● 研究開発提案者の要件

- 研究開発代表者となる研究開発提案者自らが、**国内の研究開発機関に所属**して当該研究開発機関において研究開発を実施する体制を取ること（研究開発提案者の国籍は問いません）。
- 株式会社、持株会社、有限会社等の民間企業
- 国公立大学、大学共同利用機関、国立研究開発法人、国公立試験研究機関、特殊法人・独立行政法人、高等専門学校 等
- 一般社団法人・一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、自治体 等
- 全研究開発期間を通じ、研究開発課題の責任者として研究開発課題全体の責務を負うことができる研究者であること。
- 所属研究開発機関において**研究倫理教育に関するプログラムを予め修了していること**。または、JSTが提供する教育プログラムを募集受付締切までに修了していること。（他のメンバーは、採択後に受講必須となります）
- 各種ガイドライン等を遵守すること。

応募要件(2)

● 研究開発体制の要件

- 研究開発チームは、研究開発代表者となる研究開発提案者の研究開発構想を実現する上で最適な体制であること。
 - 研究開発代表者は、自身が率いる「研究開発代表者グループ」のほか、共同研究グループを設置することができます。
 - 個人での研究開発提案も可能です。（共同研究グループなしでも構いません）

● 研究開発機関の要件

- 「3.6 研究開発機関等の責務等」に掲げられた責務が果たせること。
- 研究機関は、研究を実施する上で、委託研究費の原資が公的資金であることを十分認識し、関係する法令等を遵守するとともに、研究を効率的に実施するよう努めなければなりません。
- 応募に際しては、研究開発の実施を予定している全ての研究開発機関から事前承諾を確実に得てください。（承諾書の提出等は不要です）

利益相反マネジメント

公正で透明な評価を行う観点から、研究開発提案者と下記に示す利害関係にある者は選考に加わりません。また、主たる共同研究者に関しても、下記に示す利害関係者が選考に加わらない場合があります。

- a. 研究開発提案者と**親族関係にある者**。
- b. 研究開発提案者と大学等の研究機関において**同一の学科、専攻等に所属している者**又は研究開発提案者等が所属している大学等若しくは大学等を経営する法人の役員その他**経営に関与している**と見なされる者及び当該法人を代表して対外的に活動する者。
(同一の学科・専攻等とは、最小の研究単位である研究室又は研究チーム等よりも一つ上のまとまりを指す)
- c. 研究開発提案者と**同一の企業における同一の部署に所属している者**、研究開発提案者が所属する企業の役員その他**経営に関与している**と見なされる者及び**研究開発提案者が所属している企業の親会社等にあたる企業に所属している者**
- d. 研究開発提案者と**緊密な共同研究**を行う者。
(例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆、同一目的の研究メンバー、あるいは研究開発提案者の研究開発課題の中での共同研究者等をいい、研究開発提案者と実質的に同じ研究グループに属していると考えられる者)
- e. 研究開発提案者と**密接な師弟関係**あるいは**直接的な雇用関係**にある者。
- f. 研究開発提案者の研究開発課題と**直接的な競争関係**にある者。
- g. その他JSTが利害関係者と判断した者。

重複応募の制限について(1)

- 全ての技術領域の中から、研究開発代表者として1件のみ応募可能です。

※通常の提案1件、FSの提案1件は不可です。

- 提案時に、以下の立場にある方は、研究開発代表者として、応募できません。
 - a. ALCA-Next の研究開発代表者・主たる共同研究者
(ただし、FS課題の研究開発代表者・主たる共同研究者は除く)
 - b. GteX の研究開発代表者・主たる共同研究者 (グループリーダーおよび、委託研究の契約代表となるグループメンバー)
 - c. 未来社会創造事業「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域の研究開発代表者

※ただし、当該研究開発課題の研究開発期間が2025年度内に終了予定の場合は応募が可能です。

重複応募の制限について(2)

現在の研究開発 課題の立場 \ 応募先の研究開発 課題の立場		ALCA-Next	
		研究開発代表者	主たる共同研究者
ALCA-Next	研究開発代表者	×注1, 2	○注3
	主たる共同研究者	×注1, 2	○注3
GteX	研究開発代表者	×注1	×注1
	主たる共同研究者	×注1	×注1
未来社会創造事業「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域	研究開発代表者	×注1	○注3
	主たる共同研究者	○注3	○注3
注1) 研究開発期間が2025年度内に終了予定の場合は応募が可能です。 注2) FS課題の研究開発代表者・主たる共同研究者は応募が可能です。 注3) 応募先の研究開発課題が採択候補 となった場合は、研究開発内容や規模等を勘案した上で、研究開発費の減額や、当該研究者が参画する研究開発課題のうち一部の課題の参画を認めない等の調整を行うことがあります。			

※詳細は、募集要項「2.7 重複応募の制限について」をご確認をお願いします。

「不合理な重複」「過度の集中」の排除について

研究開発費の配分対象となる研究開発代表者や主たる共同研究者について、「不合理な重複」や「過度の集中」があるとみなされる場合は、その程度に応じ、研究開発課題の不採択、採択取消し又は減額配分を行います。

● 「不合理な重複」

- ・ 同一の研究者による同一の研究開発課題（相当程度重なる場合を含む。）に対して、複数の競争的研究費が不必要に重ねて配分される状態

● 「過度の集中」

- ・ 本事業に提案された研究開発内容と、内容が異なる場合においても、同一の研究者又は研究開発グループに当該年度に配分される研究開発費全体が、効果的、効率的に使用できる限度を超え、その研究開発期間内で使い切れないほどの状態

特に、JST が運用する全ての競争的資金制度を通じて**研究開発課題等への参加が複数**となる場合には、**研究開発費の減額**や、当該研究者が実施する**研究開発課題を1件選択**する等の調整を行うことがあります。

応募時の留意事項

● 技術領域ごとの選考について

技術領域ごとに研究提案を募集します。必ず以下の内容をご確認ください。

- 募集要項別紙第6章 「募集対象となる技術領域」
- POによる領域概要説明動画 （Webサイトに掲載）
- 可能な限り、各技術領域を幅広く解釈したうえで最も関係する技術領域を選択してください。いずれの技術領域にも合致しないと考える場合は、提案先を「その他新発想」として応募をお願いします。

研究セキュリティの確保について(1)

- 「大学等の研究セキュリティ確保に向けた文部科学省関係施策における具体的な取組の方向性」(令和6年12月18日文部科学省 科学技術・学術政策局)においては、我が国の経済安全保障上の要請に応えるのみならず、学問の自由・独立性・開放性・相互主義／互惠性・透明性といった共通の価値観に基づく開かれた研究環境を守り、大学等の国際連携を推進するために、研究セキュリティ確保が必要とされています。
- 研究セキュリティ確保の取組は、ゼロリスクを目指したり、幅広い研究に制限を設けたりすることはせず、研究や国際連携を健全に前に進めることを目的に、その際に生じ得るリスクを適切な範囲で軽減するために行うことを原則としています。また、一部の研究開発プログラム・研究分野から試行的な取組を開始することとしています。
- 本公募で機構は、上記指針に則り、研究代表者および研究機関と協議の上、**研究セキュリティ確保の取組を試行的に講じます。**
 - 対象領域：**「半導体」「グリーンコンピューティング・DX」領域**
 - 対象課題：本公募での採択課題に適用
 - 対象機関：委託研究契約書において「大学等」あるいは「企業等」と認められた研究機関

研究セキュリティの確保について(2)

- 研究提案の内容によっては、**追加情報 (※) の提出や、リスク軽減策 (※※) の対応**を依頼する場合があります。**該当する研究課題には、選考が進んだ段階で、JSTから提案者に個別にご連絡いたします。**

(※) 提案している研究体制や、国内外の協力機関（共同研究先や測定・分析・サンプル加工などの外注先）などについて。

(※※) リスク軽減策の例：電子的アクセスの制限（フォルダアクセス権の設定、ログ記録など）、物理的アクセスの制限（入退室の管理など）、サンプルの加工・供与時の散逸への注意など。



- 提案した研究を実施する上で直接的に必要な**リスク軽減策**のための経費は、**直接経費からの支出が可能**です。
- 成果の内容によっては、**外部への発表の方法について事前に、JSTから研究代表者にご相談**させていただくことがあります（必要最小限の対象範囲に関する成果公開の方法・工夫 (※) について、PO/JSTが研究者に事前相談・依頼するものです。それをどのようなかたちで受けるかを最終決定するのは研究者となります）。

(※) 公開の方法・工夫の例：口頭発表資料・論文に掲載する文章・図表の表現の調整、公開時期をずらす等。



準備が必要な留意事項

応募要件に加え、以下にもご留意ください。

● e-Radへの登録

- 応募には府省共通研究開発管理システム（e-Rad）への登録が必要です。
※研究者・機関情報の登録には2週間程度かかります。

e-Rad : <https://www.e-rad.go.jp/>

- e-Radから応募する際「研究インテグリティに関する誓約」は、研究開発代表者に加え、主たる共同研究者も必須です。（全員誓約していないとエラーで応募できません）

● researchmapへの登録

- 面接選考の対象となった研究開発代表者および主たる共同研究者は、researchmapへの登録が必須となります。未登録の方は早めの登録をお勧めします。

お問い合わせ先

詳細は、webサイトをご確認ください

<https://www.jst.go.jp/alca/koubo/2025/index.html>

募集要項・提案書様式のほか、
各種更新情報を掲載いたします

問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部

Mail. alca-next@jst.go.jp

お問い合わせはお急ぎの場合を除き、**電子メールでお願いします**



Xでも情報発信しています！
@JST_mirai



国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency